

さて。

今日の内容は実質3巻分くらいの量があるから、声のレッスンだと時間が倍はかかるからね。

だから一番重要なリーパー呼び出しの部分を除いてはこうしてテキストでレッスンさせてもらうわね。

このPDFは稽古後に読むPDFになるけど、補足知識というよりは「リーパーを介さない個人テクニックについてのレッスンテキスト」になるわ。

これは魔道書コーナーの魔道書を読む感じで受けてもらえば大丈夫だからね。

(この個人技法については3巻の内容になるけど、テキストはその予習も兼ねているわ)

### ■リーパーを介さない裁き（個人で行う裁き）

実践パートでは、あらゆるケースに対応できるようリーパーに裁いてもらう技法を教えたけど、実はこれは君自身で行う事もできるわ。

というか、割とこれも隠されたもう1つのメイン技法になるのよね。

本編でも話した通り、一巻でエネルギーの法則を学んだ今、君自身がリーパーの力を小規模ながら宿していると言つていいわ。

つまり君自身がリーパーでもあるし、君の目や耳、感覚や思考そのものが既に審判者としての機能を有しているってことね。（これは重要な意味を持つわ）

だから君が、何らかのエネルギーの詐術を目撃した場合、それに対して力を行使することが出来る…というよりも、君は既にエネルギーの流れを理解しているわけだから、その目で事象を見つめるだけでも、それは執行の力を行使しているようなものね。

だからもちろん「こいつは詐術をしている」や「奪った力を（利子をつけて）返せ」と呟いたり心で念じるだけでも執行の力になるわ。

つまり、君の意思や行動そのものが死神の力を持ち始めているわけね。

こうした何気ない所作での裁きは、リーパーを呼び出すよりも個人で裁いた方が瞬時のケースには使いやすいから、身近な出来事や即時の反応が求められるケースでは役立つと思うわ。

（私的な接触の機会が多くったり、深いトラウマなどを植え付けられた場合など、個人単位の内容の場合にも、リーパーを使わない私刑がマッチするケースも多いわね）

あと、こうした個人単位での技は強めの要求も通せるのがメリットね。

さすがに少し侮辱されただけで死を願うのは無理だけど、相手が悪意ある攻撃を仕掛けてきたのなら、かなりの倍率をもって報復しても問題ないわ。

逆に相手が格上すぎたり、超巨大かつ大規模だったり、複数だったり、組織化していたり、敵の居所が不明だったり曖昧な存在だったり、ターゲットを特定しにくい場合や自分では罰の量を測りかねる時など、個人の手に余るケースでは、どんな相手にも適切な裁きを下せるリーパーに任せた方が有利ね。

個人とリーパーの使い分けのコツはこんな感じかしら？

### ■個人での断罪の準備

個人での断罪のやり方は簡単だけど、まずは死神の鎌やスパイクなどのアイテムをシンボルマークから個別に実体化出来るよう、いつでも自在に呼び出せるように練習してね。

### ■リーパーを使わない取り立ての技法

これは、相手に何か（例：嫌がらせや笑われたなどの侮辱、露骨な無視、暴力、ハラスメントなど）をされた時に、その場で即座に行う事に適した断罪技法ね。

やり方A:

何かをされたら即座にイメージの中で請求書を作り出す。

内容は「上司の●●に侮辱された」みたいな感じでも「この与えられた痛みの分を利子を付けてエネルギー請求をする or 罰を与える」などでも構わないわ。

そうしたら、その請求書を相手の体にべたりと貼り付けて、スパイクを取り出して請求書ごと相手の体に撃ちこむの。（紙を画鋲でとめるような感じね）

これで技法は完了ね。

やり方B :

請求書が思い描きにくい場合には、何かされたら反射的にスパイクを取り出して怒りのまま相手に打ち込んでも構わないわ。

気性によってはこのやり方のほうが効く人もいるので、自分なりに得意な方を見つけてね。

ポイント :

どちらの技法もスパイクは気が済むまでどれだけ打ち込んでも構わないし、打ち込まれたスパイクはそのまま刺しっぱなしで構わないわ。

もしも、また嫌なことをされたら追加でどんどんスパイクを刺してやれば、やがて相手はハリセンボンみたいな姿になり衰弱していくけど、まあそれも自業自得だから気にする必要はないわね。

タイミング :

このやり方は相手が目の前にいて接触できるなら理想的ね。

（※接触できる機会があるなら、その時に「請求書」を相手の体に貼り付けたり、スパイクを打ち込んでね）

それが難しそうな場合なら目の前で、もしくは視界に入る場所からロックオンして行うといいわ。

それも厳しいケースなら自室などの集中できる場所で相手の写真を使ったり、相手の姿をイメージで思い描きながら技法を行うといいわ。

**■リーパーを使わないジャッジメントの技法**

これも上記と同じ感じになるわ。

個人的に断罪したい許せない相手がいる時に、君自身の手で死神の鎌を取り出して相手の体に引っ掛けて、それを引いて判決を下すといいわ。

これは直接相手に触れられるなら、触ったその瞬間に手のひらを死神の鎌に見立てて、イメージでざっくりと相手の中身を切り裂いてやってもいいし、触れなくても視界の中で相手を切り裂いてやってもいい感じね。

相手が視界に無い自室で断罪する場合には、実践パートの要領で、自分で死神の鎌を振って裁判空間を生み出し、その中に相手を立たせてから断罪を行えばいいわ。

(このあたりは割と自由なイメージで技を構築していって構わないわよ)

**■応用的な考え方**

最初に話した通り、君は既にリーパーの力を宿しかけているから、目で見たり、呟いたり念じるだけでも執行の効果はあるわ。

というか、それが1つの理想形態ね。

どんな方法を行っても効くのは基礎法則を抑えているからよ。

これは一巻の2つの根源法則と、今回教えた請求の概念のおかげね。

この基本さえおさえておけば、どんなやり方やイメージでも通用するし、うまくいきやすいわ。

で、応用のヒントや個人技法を教えていくのが3巻の内容になるわね。

3巻では色々な死神テクニックを教えていくから、きっと応用へのヒントやオリジナル技への閃きになるはずよ。

**■私刑に関する捉え方**

こうしたリーパーに頼らない断罪は言わば私刑に近いわけだけど、ひょっとしたら君は「自分自身の勝手な怒りや恨みなどの判断で判決を下していくのだろうか?」って思うかもしれないけど、それは構わないわ。

…というよりは、君は一巻の稽古を学ぶことで、すでにエネルギーやカルマの流れを体感として身につけ始めているからね。

エネルギーの仕組みを学び稽古するほどに、君の心身は調停や審判、執行の権利を持つに相応しい存在に変化していくわ。

それに、一巻を習った君なら死神のルールを大幅に逸脱した裁きをするケースはほぼ無いだろうし、何か嫌なことをされた時に感じる怒りや恨みには全て正当性や理由があるわ。加えて言うなら、裁きに使う「死神の道具」自体がバランスも取ってくれるからね。これらを統合して考えても、個人的に裁きを行う事に関して後ろめたさや心配を感じる必要性は無いわね。

まあ…どうしても心配が晴れないようなら、第一巻を沢山稽古して感覚を磨いておくことをおすすめするけどね。

### ■最後に

とりあえず、リーパーを呼び出さない個人で行う技法に関してはこんな感じね。ぶっちゃけると日常的なシーンでは、こちらの方が使いやすいんじゃないかしら？

どんな相手にも適切に裁きを行えるリーパーは強力な武器になるし、そうでない個人相手には君自身の手で裁くのも良いかもしれないから、そのあたりは個人の気性とケースバイケースだから、うまく扱ってみてね。

あと、3巻ではシンボルマークから3つの死神の道具を別々に出すシーンもあるから、とりあえずそのあたりの稽古もしておいてもらえると助かるわ。

-----おまけ-----

これは本編で製作した3つの道具についてのテキスト部分ね。

文字化しておくと意味がさらに入りやすくなると思うから載せておくわね。

### ■リーパーの扱う道具

#### ・死神の鎌

これは「エネルギー」と「死」を象徴する武器であり、エネルギーの根源法則やカルマの法則にのっとって作られた強力なアイテムね。

主な使い方としては相手の精神体に引っ掛けて今まで搾取したエネルギーを取り出したり、裁きを行う場合に用いるわ。

生物はすべからく死を恐れるし、精神的存在ですら消滅を恐れるわ。

だからあらゆる存在、特に邪悪な者にとっては、これは最も忌み嫌う武器ってわけね。

#### ・スパイク

これは吸血鬼の心臓に打ち込む「クイと木槌」で有名な、あのクイをイメージしてもらえばいいわ。

この星だとクイやパイル、スパイクって色々な単語があるけど、今回は音韻がいいからスパイクって呼ぶわね。

これは対象の体に打ち込んで使用する道具で、エネルギーの長期取り立てや懲罰（ちょうばつ）に使う物ね。

これを打ち込まれた存在は魂を縛られ苦痛を与えられ、エネルギーとカルマの借金を返済しきらない限り、永遠に体に突き刺さったままエネルギーを吸われ続けるわ。

#### ・天秤

これは公平を司る天秤ね。

このアイテムは物事の公平性を測る時や、軽微な罪を裁く時などに使われるわ。

鎌やスパイクを使用する程ではないけど、不公平を感じたりする時に使うバランサーの役割ね。貸し借りの量を均等にしたり、公正さを測ったりする時にとても役立つわ。

この3つのアイテムはうまく使いこなせば色々なことが出来るわ。

そのあたりの技法やヒントは3巻で詳しく説明していく予定よ。